

<今日の説教のポイント I コリント 12 章 31b~13 章 13 節>

1 有名な愛の章句。それがここで語られた理由は？

結婚式で読まれる有名な箇所です。本当の愛について考えさせられるからです。しかし、パウロは結婚式のために語ったではありません。主の教会を建てるために、各人に賜物が与えられていることを語った後に続けて語ったのです(12 章)。それはなぜでしょうか？

2 全ての人に用意された素晴らしい賜物に与える道！

「賜物」と聞くと「神様が私たちに下さる物」と考えがちです。そうになると、自分に与えられた物と他者に与えられた物との違いを比べ、神様に不満をぶつけかねません。そこでパウロは、「あなた方は、もっと大きな賜物を受けるよう熱心に求めなさい」と言った後、「そこで、わたしはあなたがたに最高の道を教えます」と言い直しています(12:31)。道、すなわち、誰もがそれを追い求められる道だと言うのです。その追い求めるものこそが愛なのです。「愛を追い求めなさい」(14:1)。

3 私でなく、愛が主語。私が～ねばならない、ではない！

13 章 3 節までは「私」が主語です。私がこんな愛を持っているかどうかと考えるでしょう。しかし 4 節以降は「愛」が主語です！「素晴らしいと思うけれど、私はこんな愛を持ってない」と考えるなら、私が主語になっていて、それはパウロがここで言っていることとは違います。どうしてパウロはこんなに堂々と崇高な愛について語れるのでしょうか？自分ではできているのでしょうか？ そうではありません。

4 神もキリストも一言も出て来ないが、全背景にそれらが見える！

この箇所には神もキリストも一言も出て来ません。しかし逆にパウロは、それらを持ち出す必要ない程、どの箇所、どの言葉においても、イエス・キリストによって私たちへの「途方もない」(「最高の道」(12:31)の「最高の」の原意) 愛を示して下さった「神様の愛」を考えているのではないのでしょうか。主語は「神様の愛」です！その愛の尊さ、深さ、強さに打たれた者は、その愛が私に及ぶ時には私にできないことはない、その愛が私を変えてくれる、そう信じて歩めるようになるはずです。4 ~7 節の愛の内容は、私のために注いで下さったキリストの愛を覚えながら取り組むなら、決して私たちにも不可能な内容ではないのです！